日本人の忘れもの

NIHONJIN NO WASUREMONO

第2部　20

忘＝筆　森清範　清水寺貫主

おもてなし

「おもてなし」という言葉をよく目にしますが、本来は表に出さない心遣いだと思います。奥ゆかしく慮ることをわざわざ声高に言わねばならないのは、世の中がせちがらくなった証しでしょうか。

私は先代からの、「縁の下の力持ちであれ」という教えを守ってきました。お茶屋の女将とは、舞妓さん、芸妓さんとお客様の間を取り持つ裏方的な存在で、陰で心を尽くすのが役割です。お客様の希望をかなえられるように、さりげなく気を配ります。

TPOを気にしない現代

「一見さんお断り」というのも、ただ知らない人を断っているのではありません。お客様のことをよく知って、心地良い時間を過ごしていただくため。お客様も、遊びに来て芸舞妓さんの芸を見ることで、その上達を支えてくださっているのです。舞妓さんは厳しい稽古を積み、芸を見ていただいて磨きをかけ、日本文化を継承しています。お客様は祇園町と芸の支援者でもあり、まちぐるみで一朝一夕ではない信頼関係を築いているのです。

現代はTPOをあまり気にしなくなりましたが、その場にふさわしいありようを見直さねばならないと思います。どんな場においても迎える側が気を配り、訪れる人もそれに応えてふるまう、思いやりのキャッチボールで、快いシーンを一緒につくり上げてゆくのが、お付き合いの基本ではないでしょうか。

花街にはしきたりがあり、それが堅苦しいと取られがちですが、実はとても合理的にできています。決まった日に行事があり、四季折々に部屋の室礼や装いが変わるのです。「八朔」にはごあいさつに回り、「事始め」から暮れの準備を始めます。決まっていれば時期で頭を悩ませることはないし、作法も分かっているのでうろたえません。部屋にも季節らしい掛け軸や花を飾り、舞妓さんは月ごとの簪を飾ります。そういったことを面倒と考えず、決まりごとを楽しむと思えば暮らしやすくなるでしょう。

杉浦京子
一力亭 女将

日本人の美徳である奥ゆかしさや感謝の気持ちを忘れずおごりなく暮らしたい。

花街の行事はまちの慣わし

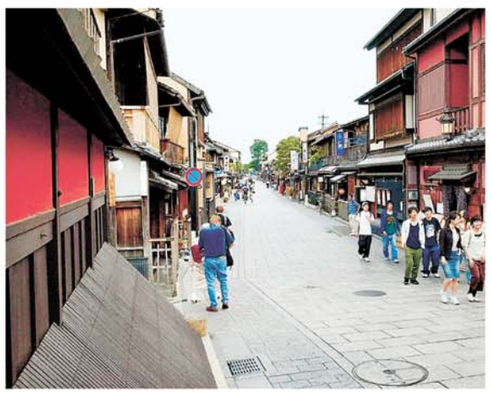
近年は、真夏にブーツを履くなど季節感のない装いを目にしますが、見るからに暑苦しいし、本人もさぞ暑いでしょう。おしゃれは自由に楽しめばいいものでしょうが、同じ楽しむなら季節感を味わうほうがいいのになと思います。

京舞井上流五世家元 井上八千代さん（左手前）に新年のあいさつをする「事始め」（12月13日）で、舞扇を受ける芸舞妓たち。（京都市東山区、井上八千代さん宅）

ところで、祇園町にはたくさんのカメラマンが訪れます。写真は良い趣味ですし、カメラ人口が増えるのはいいことです。けれども我れ先にと人を押しのけて撮影をしたり、舞妓さんを止めてポーズを取らせるのは困ります。店先に陣取れば、出入りの邪魔になることもあるでしょう。

特別な日には、いつもに増して大勢の人がシャッターチャンスをうかがいますけれど、花街の行事はイベントではありません。大事にしているまちの慣わしであり、お師匠さん方やお茶屋さんへ礼を尽くす神聖な伝統ですから、お世話になっている方々のもとへ向かっている心境をお察しいただいて、良識ある行動を取っていただきたいものです。

これらも相手の立場を思いやる心があり、TPOを気遣う神経があれば、円滑にいくことではないでしょうか。日本人の美徳である奥ゆかしさ、いろんな人やものに生かされているという感謝の気持ちを忘れず、おごりなく暮らしたいものです。



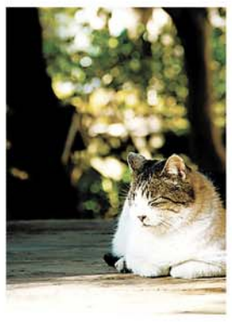
◉すぎうら・きょうこ
1956年、京都市生まれ。同志社大文学部卒。81年、創業300余年の老舗お茶屋、一力亭13代目主人と結婚。女将として、京都祇園の花街の伝統と格式を重んじ、おもてなしの精神を守り続ける。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。（毎週日曜日に掲載します）

きょうの季寄せ（十一月）

ねこの眼に
海の色ある
小春かな

久保より江



7日が立冬で、14日から旧暦10月、神無月に入る。暖かで春に似ているので小春と称美する。小春日和である。

海の色が眼に映っている猫なのか、眼光が青みを帯びている猫なのか、日向に寝そべって、時々眼を開ける穏やかな光景を思い浮かべてみる。

芥川龍之介にも次の句がある。

木枯や目刺にのこる海のいろ

（文・岩城久治）

「きょうの心伝て」⑳

KOKORO DUTE

林　寛治
NPO法人都草会員（大津市／74歳）

神仏への祈り

秋の観光シーズンを迎え、京都の社寺は修学旅行生であふれています。特に受験生にとって、今や学問の神「北野天満宮」は必須の観光地です。各社寺には、縁結び、開運、金運など、ご利益札が目につきます。

ある書物に社寺へのお参りには、「神仏にお願いする」請求書型と「お礼の気持ちを伝える」領収書型があると書かれていました。

ややもすれば、私たちは神仏にはお願いすることだけを考え、感謝する気持ちを見失っているのではないでしょうか。

龍安寺の石庭に、「吾唯足知」と彫り込まれた蹲踞があります。足ることを知って初めて満足が得られるという意味です。

これまでは、神仏にお願いしてもご利益があるのだろうかと、いつも半信半疑の私でした。しかし、この頃では「お陰さまで」の感謝の言葉を添えて、神仏に手を合わせるひとときに、心の安らぎを覚えます。

「きょうの心伝て」募集

◉あなたの思う「日本人の忘れもの」は何ですか？暮らしの中で忘れてはならないと思う日本人の心の系譜や、伝えたい京都に残る心遣いなどをお寄せ下さい。京都新聞社で選考、添削する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル（12文字以内）と本文（400文字以内）、郵便番号、住所、氏名（匿名は不可）、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8577 京都新聞COM「きょうの心伝て」係まで。
Fax：075-222-2200
E-mail：wasuremono@mb.kyoto-np.co.jp

◉「日本人の忘れもの」は、京都新聞ホームページhttp://kyoto-np.jp/kp/kyo_np/info/nwc/でご覧頂けます。

THE NEW VALUE FRONTIER
KYOCERA
京セラは、技術力でエネルギーを変える。
KYOCERA THINKING ENERGY

発電効率を保てる太陽電池は、意外と少ない。

太陽電池は長く使い続けるもの。長い間変わらない発電効率が求められます。
少し意外ではありますが、効率が下がっていく太陽電池が多いのも事実。
その中で京セラの製品は、世界最高水準※1の耐久性能が立証されており
2013年、鹿児島に誕生する日本最大級※2のメガソーラーに採用される、決め手にもなりました。

これからは、電力を一人ひとりが選ぶ時代。
私たちは、長年の実績と、耐久性能という名の「品質」で応えたい。
太陽電池からすべてのエネルギー製品まで、「創」「蓄」「省」エネルギーの
あるべきカタチを常に考え、提供してまいります。

創エネ　太陽光発電システム

蓄エネ　リチウムイオン蓄電システム

省エネ　ホームエネルギーマネジメントシステム

第37回ホリプロタレントスカウトキャラバン2012 グランプリ　優希美青（ゆうき みお）
※1 フラウンホーファー研究機構が、世界の主要13製品に対し実施したPID試験による。　※2 2012年9月現在、当社調べ。
京セラ株式会社